

1級土木施工管理技術検定 1次検定試験

A問題「問2」特集

平成30年～令和4年まで

FCKC 福島キャリア教育センター

FCKC

福島キャリア教育センター

試験問題 & 解答試案をお送りいたします。

平成30年度

問題A 選択問題

問 2

土工における土量の変化率に関する次の記述のうち、**適当でないもの**はどれか。(平成30年)

- (1) 土量の変化率 C は、土工の配分計画を立てる上で重要であり、地山の土量をほぐした土量の体積比を測定して求める。**変化率 C は締固め率** **ほぐし率の変化率は L**
- (2) 土の掘削・運搬中の土量の損失及び基礎地盤の沈下による盛土量の増加は、原則として変化率に含まれない。
- (3) 土量の変化率は、実際の土工の結果から推定するのが最も的確な決め方で類似現場の実績の値を活用できる。
- (4) 土量の変化率 L は、土工の運搬計画を立てる上で重要であり、土の密度が大きい場合には積載重量によって運搬量が求められる。

令和元年度 問題A 選択問題

問 2

土工における土量の変化率に関する次の記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) 土の掘削・運搬中の損失及び基礎地盤の沈下による盛土量の増加は、原則として変化率に含まれない。
- (2) 土量の変化率 C は、地山の土量と締め固めた土量の体積比を測定して求める。
- (3) 土量の変化率は、実際の土工の結果から推定するのが最も的確な決め方で類似現場の実績の値を活用できる。
- (4) 地山の密度と土量の変化率 L がわかっていれば、土の配分計画を立てることができる。

締め固め率 C も必要

令和 2 年度

問題A 選択問題

問 2

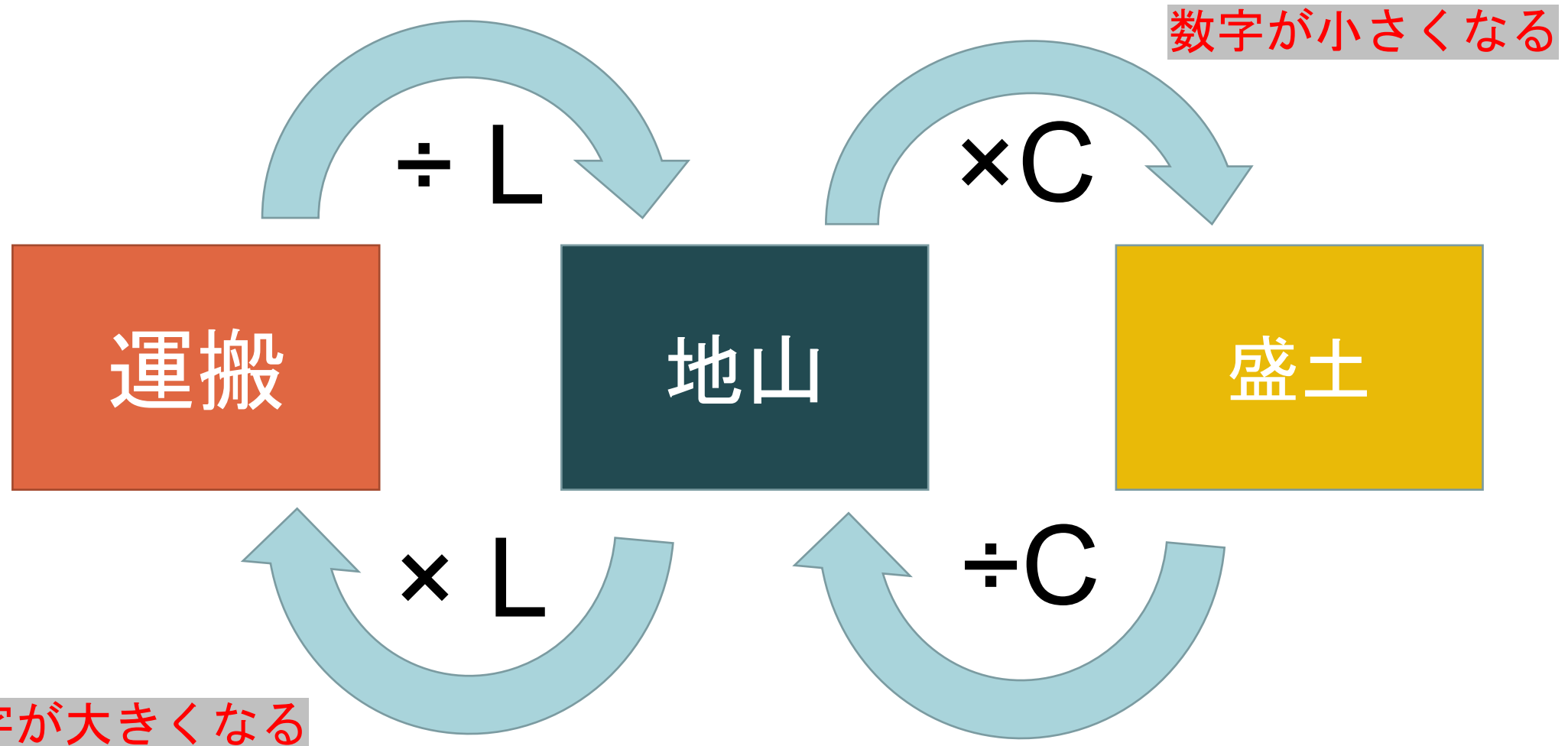
【No. 2】 土工における土量の変化率に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。

- (1) 土量の変化率は、実際の土工の結果から推定するのが最も的確な決め方である。
- (2) 土の掘削・運搬中の損失及び基礎地盤の沈下による盛土量の増加は、原則として変化率に含まれている。 含まれていない。
- (3) 土量の変化率 C は、地山の土量と締め固めた土量の体積比を測定して求める。
- (4) 土量の変化率 L は、土工の運搬計画を立てる上で重要であり、土の密度が大きい場合には積載重量によって運搬量が定まる。

ほぐし率 L = ルーズLoose : 緩めるの意 . 締固め率 C = コンパクトCompact : 固めるの意)

ほぐした土量(m^3). 締固めた土量(m^3). $L > 1$ $C =$. 地山土量(m^3). $C < 1$

土量計算の基本図



令和3年度 問題A 選択問題

問2

【No. 2】 法面保護工の施工に関する次の記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) 種子散布工は、各材料を計量した後、水、木質材料、浸食防止材、肥料、種子の順序でタンクへ投入し、十分に攪拌して法面へムラなく散布する。
- (2) 植生マット工は、法面が平滑だとマットが付着しにくくなるので、あらかじめ法面に凹凸を付けて設置する。
法面仕上げはできるだけ平滑に整形
- (3) モルタル吹付工は、吹付けに先立ち、法面の浮石、ほこり、泥等を清掃した後、一般に菱形金網を法面に張り付けてアンカーピンで固定する。
- (4) コンクリートブロック柵工は、柵の交点部分に所定の長さのアンカーバー等を設置し、一般に柵内は良質土で埋め戻し、植生で保護する。

令和4年度 問題A 選択問題

問2

【No. 2】 法面保護工の施工に関する次の記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) モルタル吹付工は、法面の浮石、ほこり、泥等を清掃し、モルタルを吹き付けた後、一般に菱形金網を法面に張り付けてアンカーピンで固定する。
- (2) 植生マット工は、法面の凸凹が大きいと浮き上がったり風に飛ばされやすいので、あらかじめ凹凸をならして設置する。
- (3) 植生土の工は、法枠工の中詰とする場合には、施工後の沈下やはらみ出しが起きないように、土のうの表面を平滑に仕上げる。
- (4) コンクリートブロック枠工は、枠の交点部分には、所定の長さのアンカーバーなどを設置し、一般に枠内は良質土で埋め戻し、植生で保護する。